

「自立」を育む教育の連続性・一貫性の調和がとれた円滑な接続 ～盛岡の子どもたちに「夢」と「誇り」と「志」を～

ねらい

精神的な自立

自分のよさや可能性に気付き、意欲や自信、「夢」を持って前向きに生活する。

生活上の自立

自分のことを自分でしようとし、得意なこと、不得意なことに気付き、自分自身に「誇り」をもつ。

学びの自立

自ら進んで行うとともに、自分の思いや考えなど（「志」）を表現しようとする。

幼児教育において育みたい資質・能力

知識・技能の基礎

- 基本的な生活習慣や生活に必要な技能の獲得
- 様々な気付き、発見の喜び
- 日常生活に必要な言葉の理解等

思考力・判断力・表現力等の基礎

- 試行錯誤、工夫
- 新しい考えを生み出す喜びや楽しさ
- 自分なりの表現
- 表現する喜び等

遊びを通しての総合的な指導

- 自信
- 好奇心、探究心
- 安定した情緒
- 葛藤、自分への向き合い等

学びに向かう力・人間性等

学びの芽生え

自覚的な学び

小学校教育において育みたい資質・能力

生きて働く「知識・技能」の習得

未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成

教科の特質に応じた指導

学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養

「夢」

将来に対する希望。実現したいという願い。自分の目指す理想。

「誇り」

自分や自分の故郷に対する愛着。自信。

「志」

目的や信念を持って実現に向けて努力しようとする決意。

アプローチ期：各領域の関連的・総合的な指導

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

スタート期：生活科を中核とした合科的・関連的な指導

学びの芽生え

遊びの中での学び

環境の構成

主な活動

連携小

家庭との連携

領域	5歳児（10月～3月）の姿	接続の手立て	1年生（4～6月）の姿	接続の手立て
健康	○自分のめあてに向かって心と体を十分に働かせ、 根気強く やり抜こうとする。 ○自分の健康や安全に関心を高め、 自分の体を大切に する予防や行動を進んで行う。 ○生活の流れを予測して、 活動の見通し をもって取り組もうとする。	安心して就学できる工夫 ・保護者や周囲の大人に温かく見守られているという安定感、安心感が得られるようにする。 ・家庭と連携し、基本的な生活習慣が身に付くようにする。	協同性 道徳性・規範意識の芽生え	安心して自己を発揮できる ～夢～ ○小学校生活に 親しみと期待 をもち、さまざまなものに関わろうとする。 ○これまでの生活や遊びでの経験を、小学校での学習に つなげたり生かしたり する。
人間関係	○ 自分のことは自分で やろうとし、最後までやり遂げようとする。 ○目的に向かって役割を相談し、 自分の役割を意識 して行動する。 ○活動にじっくり取り組み、 自分の力を発揮 する。	人間関係を豊かにする工夫 ・相手の話に興味をもち、注意深く最後まで聞くことができるようにする。 ・相手の気持ちになって考え、一緒に遊んだり、仲直りしたりすることができるようにする。	思考力の芽生え 自然との関わり・生命尊	身近な環境に主体的に関わる ～誇り～ ○教師や友達に親しみをもち、一緒に遊んだり話しかけたりする等して関わりを広げる。 ○これまでの 経験を生かす とともに、新たに 自分の興味・関心を広げる 。
環境	○飼育や栽培を通して 命の大切さ に気付き、大切に育てようとする。 ○ 数量や図形、簡単な標識や文字に関心 をもち、遊びや生活に生かそうとする。 ○物や遊具、用具の特性を比べたり関連付けたりしながら捉え、 工夫 して遊ぶ。	興味関心や体験を広げる工夫 ・協働的な学びの中で、集団活動の面白さを実感できるようにする。 ・環境と関わり、主体性を発揮しながら活動できるようにする。	健康な体と心	夢中になって学び、進んで表現する～志～ ○自分の考えを聞いてもらえる安心感をもち、相手の考えも尊重する。 ○学び方を身に付け、学習を通して 力が身に付く喜び を感じる。
言葉	○相手の話を注意深く最後まで聞き、経験したことや考えたことを相手に 分かるように話す 。 ○親しみをもち友達や先生と 挨拶 をする。 ○言葉や文字で 伝え合う楽しさ を味わう。	言葉による伝え合い 豊かな感性と表現	主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出す子ども 発揮し、さらに伸ばしながら	興味関心や体験を生かす工夫 ・思いや願いを生かした学習活動を構成する。 ・思いや願いを自分なりに表現できる場を設定する。 ・体験をきっかけにして、各教科につなげる。
表現	○感じたことや考えたこと等を、 表現する楽しさ を味わう。 ○身近な 物事に関心 を広げ、そのイメージを遊びに取り入れようとする。 ○共通のイメージを友達と共有し、 遊び等に発展 させようとする。	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚		

自覚的な学び

各教科等の授業を通じた学び

環境の構成	○生活に見通しがもてるような環境づくり（時計、文字、カレンダー、絵等） ○保育者の手本（ルールを守ると楽しく遊べる、協力すると気持ちよい、力を出し切ると心地よい等） ○季節の変化を感じたり発見したりしたことを伝え合い共感し合える場の設定、文字や数遊びが楽しめる教材の用意 ○協同性を高める遊びの工夫、個々の自発性の発揮を基本とした遊びの組織	○見通しがもてる（朝の支度、1日の流れ、活動の手順等） ○安心できる（フリースペース：選択した活動ができる場） ○自ら学びを見付ける（本や資料の常設、学習掲示等） ○仲間作りができる（集団での活動の促し、協働的な学習の位置付け等）
-------	---	--

主な活動	○ボール遊び（ドッジボール・サッカー等）○登り棒 ○鉄棒 ○リレー ○縄遊び ○巧技台を組み合わせたのアスレチック遊び ○鬼ごっこ（助け鬼・増え鬼） ○劇遊び ○合奏 ○発表会 ○クリスマス会 ○自然を使った遊び（木の葉・落ち葉など）	○お手紙ごっこ ○お屋さんごっこ ○カレンダー作り ○思い出文集作り ○修了製作 ○正月遊び（カルタ・こま等） ○小学校ごっこ ○自然物を使った遊び ○小学校訪問（1年生との交流） ○当番活動の引継ぎ	○入学式 ○1年生を迎える集会 ○交通安全教室 ○運動会 ○遠足 ☆学校探検（友達、先生、教室や施設、使い方やルール等を知る） ☆発表・表現（自己紹介をする、みんなで合唱曲や校歌を歌う、整列や移動等みんなで同じ動きをする、走る等の基本的な運動をする）
------	--	---	---

連携小	幼児・児童 行事参観（年間） 交流①（小学生の園訪問等） 保育士・教員 盛岡市幼保小交流研修会（情報交流、研修、地区毎協議） 地区幼保小等連絡会（小学校参観、保育参観、情報交流、新入児の情報交換等） 特別支援 個別支援ファイルの作成 巡回指導（～12月） 学校見学・懇談 支援を要する就学児支援ファイル調査 個別相談 支援ファイルを活用した引継ぎ	交流②（園児の小学校訪問等） 交流③（就学時検診、体験入学等）
-----	---	------------------------------------

家庭との連携	4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月	○育児相談（年間） ○便り等での情報提供（年間）	○就学前の懇談会等	○新入児保護者会（就学時等）	○新入児保護者会（入学説明会）
		子どものよさや伸びようとしているところを保護者へ伝え、成長とともに実感し、肯定的に見守っていけるようにする。	就学に向けて、生活リズムを整え、基本的な生活習慣が身に付くように、園と家庭で協力して取り組んでいく。	就学への不安や悩み等を共有し、適切に対応する。	

スタートカリキュラムの作成

- ・実施時期を検討
- ・単元の構成と配列（単元配列表の作成）
- ・生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫
- ・週の計画と時間配分の工夫
- ・弾力的な時間割の設定

スタートカリキュラムの実施

- ・子どもの思いや願いを生かす
- ・体験をきっかけに各教科等につなげる
- ・子どもが主体的に自己を発揮できる場面を設定する
- ・1時間の中での遊びや活動を構成する
- ・個々の生活環境や育ちに配慮する

《盛岡市》 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿と期待する児童の姿（具体の例）

アプローチ期		幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿	スタート期			
5歳児（10月～3月）	この時期に育ってほしい具体的な姿	1年生（4月～6月）の姿	10の姿を発揮しながらさらに伸ばす手立て			
<ul style="list-style-type: none"> 思いきり体を動かして遊ぶ心地よさを味わう。 鬼遊びやリレーなど、仲間を集めてルールのある遊びを楽しむ。 自分の健康についての関心を高め、手洗い・うがい・排泄・衣服の調節など自分の身の回りのことを進んで取り組もうとする。 健康な生活リズムを身に付ける。 災害時の避難の約束が分かり、落ち着いて行動し、命を守ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな運動遊びや用具に関心をもち、自分のめあてをもって進んで取り組んだり、繰り返し挑戦したりしようとする。 冬の寒さに負けずに元気に登園して遊ぼうとする。 食事のマナーや食事時間を意識し、好き嫌いをしないで食べようとする。 一日の生活の流れを意識して行動しようとする。 	主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出そうとする子ども	安心して自己を発揮できる ～夢～ <ul style="list-style-type: none"> 学校の施設や遊具等の使い方を知り、安全に活動する。（生活・体育） 1日の生活の流れが分かり、自分ができることに自信をもって取り組む。（生活）【日常生活】 分かることやできることを発揮しながら、新しい活動に取り組もうとする。（生活→各教科・領域）【日常生活】 		スタートカリキュラム作成のポイント <ul style="list-style-type: none"> ○10分～15分程度の短い時間を活用した時間割を構成する。（弾力的な時間割設定） ○自らの思いや願いの実現に向けた活動をゆったりとした時間の中で進めていける活動時間を設定する。（2時間続きの学習活動の位置付け等） ○同じ学習内容を繰り返す連続性と、少しずつ内容が高まる発展性を意識する。 ○児童の思いや願いの実現に向けた主体的な学習が繋がっていく1週間の時間割を計画する。 ○自分との関わりを通して総合的に学ぶ特性を踏まえた生活科を中心とした合科的・関連的な指導の充実を図る。 ○単元構成を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動を取り入れる。 ・友達と関わりを重視する。 ・児童の意識の流れを大切にします。 ○安心感をもち、自分の力で学校生活を送ることができる学習環境を整備する。 ○学習意欲を持続できるよう、他教科の指導の際、生活科との関連を意識する。 	
<ul style="list-style-type: none"> 自分のめあてに向かって挑戦しようとする。 困難に出会ってもあきらめずに根気強く取り組み、やり遂げた喜びや達成感を味わう。 生活や行事の中で、自分の役割を意識して行動する。 自分のしたいことを自分の力で実現しようと取り組みながら、自分の得意なことやよさに気付くようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 園生活の思い出を振り返り、いろいろなことができるようになってきた自信を感じ、1年生への期待感を膨らませていく。 身支度や持ち物の準備、片付けなど自分の身の回りのことを進んで行い、より良いやり方を考えて取り組もうとする。 月日、曜日、時間などに関心が広がり、遊びや活動への見通しをもって意欲的に行動しようとする。 		自立心			
<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に挑戦したり、競い合ったりする楽しさを味わう。 ルールや勝ち負けの意味が分かり、チームの友達と力を合わせて遊ぶ。 お店ごっこや発表会など、グループや学級のみんなで共通の目的に向かい、相談したり、分担や協力をしたりしながら、一緒に作り上げていく楽しさを味わう。 学級の意識を高め、友達と一緒に行動する楽しさや一体感を感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 仲のよい友達にこだわることなく、誰とでも遊ぼうとする。 友達を思いやり、困っている友達には助けてあげようとする。 友達のよさや頑張りを認め、自分に取り入れようとする。 学級のみんなで遊びや活動を進める中で、自分のよさを発揮する。 卒園に向け、学級のみんなで共通の目的に向かって力を合わせて取り組み、達成感を味わう。 		協同性			
<ul style="list-style-type: none"> 生活のきまりの必要性を理解し、守って行動しようとする。 遊びの中で友達とルールや順番などを考え合い、それを守り、より遊びが楽しくなるように進めようとする。 友達の気持ちを考え、自分の気持ちを調整したり、行動したりしようとする。 遊んだ後は、次に使いやすいように考えてきれいに片付けようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達とのトラブルが起きた時には、話し合っ互いに納得がいく方法で解決していこうとする。 よいことや悪いことが分かり、自分で考えたり判断したりしながら、行動しようとする。 自他の物の区別が付き、どちらの物も大切に扱おうとする。 		道徳性・規範意識の芽生え			
<ul style="list-style-type: none"> 地域や施設等を訪問し、小学生や老人などとのふれあいを楽しむ。 身近な施設や出来事に関心をもち、見たり聞いたりしたことを遊びに取り入れて楽しもうとする。 気象やスポーツなど、テレビや新聞からの情報に興味関心をもち、教師や友達と話そうとする。 身近な人々に親しみと感謝の気持ちをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 年下の子ども達に対して、思いやりの気持ちをもって交流を楽しもうとする。 卒園が近付いてきたことを感じ取り、一年間取り組んできた当番活動を振り返り、下学年の子ども達に引き継ごうとする。 		社会生活との関わり			
<ul style="list-style-type: none"> 材料の特性を知り十分に触れる中で、イメージに合うように使い方を予測したり工夫したりして遊ぶ。 遊びを振り返り、できるようになったことに達成感を味わい、これからの遊びについて期待感や見通しをもつことができる。 遊びがより楽しくなるように、友達と考えを出し合いながら、遊びを広げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの遊びの経験を生かして、遊びに見通しをもち、用具や材料を工夫して遊びに必要なものを作ろうとする。 友達の考えに刺激され、新しい考えを生み出す喜びを味わい、自分の考えを広げようとする。 		思考力の芽生え			
<ul style="list-style-type: none"> 栽培した植物の成長を感じ取ったり、収穫した喜びを味わったりしながら、生命の一巡に関心をもつ。 秋の虫など身近な生き物とのふれあいを通して、命の大切さに気付く。 落ち葉や木の実などの自然物を見付けたり、遊びに生かしたりする。 秋から冬への自然の変化に触れ、動植物の変化にも関心を寄せていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 雪や氷等の冬の自然に親しみ、雪や氷に触れて存分に遊びを楽しむ。 身近な自然事象に関心をもちながら、冬の自然の厳しさを感じたり、春の訪れを楽しみにしたりする。 		自然との関わり・生命尊重			
<ul style="list-style-type: none"> 遊びの中で楽しみながら、数量や図形、文字等への関心をもち、遊びに取り入れて使う楽しさに気付く。 木の実や落ち葉などを見つけ、形や色などに関心をもちながら、分類したり、遊びに生かしたりして楽しむ。 チームで得点を競ったり、玉の数などを数えたりして数量への関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 郵便ごっこや学校ごっこなどの遊びを通して、文字への興味・関心を高め、文字を使う楽しさや相手に伝えるおもしろさに気付く。 カルタやトランプ、すごろくなどお正月遊びを友達と楽しみながら、数量や文字などへの関心を高めていく。 		数量や図形、標識・文字などへの関心・態度			
<ul style="list-style-type: none"> 経験したことや考えたことなど、自分なりの言葉で伝えようとする。 保育者や友達の話をも最後まで聞こうとする。 読み聞かせや絵本貸し出しを楽しみ、いろいろな絵本や物語に親しみながら、想像したり感じたりしたことを言葉で表現する。 友達と考えを伝え合いながら、劇のセリフや動きなど相談し、表現する楽しさや学級のみんなと作り上げる喜びを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや思いを相手に分かるように伝えたり、相手の話をよく聞いて相談したりしながら、一緒に遊びを進めようとする。 進んで挨拶や返事をしたり、相手や状況に応じた言葉を選んで話したりする。 友達と互いのよさや頑張りを認め合い、言葉で伝え合おうとする。 		言葉による伝え合い			
<ul style="list-style-type: none"> 感じたことや考えたことを、体や絵、言葉などで、自分なりに表現する喜びを味わう。 お話の世界にイメージを広げ、言葉や音楽に親しみながら、友達と一緒に劇や歌や演奏などを作り上げようとする。 秋の自然の美しさや不思議さに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達とイメージを共有し合いながら、遊びや活動に発展させようとする。 卒園製作や卒園式の歌など、共通の目的に向かって力を合わせて取り組む中で、自分の思いを込めて、伸び伸びと表現しようとする。 		豊かな感性と表現			

※これらの姿は、到達すべき目標ではなく、自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特성에応じて育っていくものであり、全ての幼児に同じように見られるものではないことに留意すること。

※「10の姿」を手掛かりに幼児期の実態を理解するとともに、子どもの成長を共有することを通して、幼児期から児童期への発達の流れを理解すること。